



新々会計基準の概念に柔軟に対応する
『PCA 公益法人会計クラウド』。
ランニングコスト削減にも成功

公益社団法人



全国ビルメンテナンス協会

全国に 9 つの地区本部を持つ公益社団法人全国ビルメンテナンス協会。平成 20 年の公益法人会計基準の改正をきっかけに、『PCA 公益法人会計 クラウド』へと切り替えた。当初はランニングコストが抑えられる点選ばれた理由だったが、クラウドならではの安心感、そして新しい会計基準の概念に照らし合わせたわかりやすい会計の仕組みが好評だ。なぜ『PCA 公益法人会計』が人気なのか、その理由に迫った。

導入システム

・ PCA 公益法人会計 V.11 for SaaS (5CAL)

導入の狙い

- ・ 現行ソフトでは平成 20 年の公益法人会計基準改正への対応が困難。
- ・ 新ソフト導入の初期費用は安く抑えたい。
- ・ 本部と地区本部が情報を同レベルで共有したい。

導入効果

- ・ 『PCA 公益法人会計』は新しい会計基準にも対応。
- ・ クラウド利用の会計ソフトのため初期費用を大幅に削減。
- ・ クラウドのため本部と地区本部の双方がつねに同じ情報を確認・共有できる。

プロフィール

公益社団法人 全国ビルメンテナンス協会
Japan Building Maintenance Association(略称 JBMA)

□所在地：〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5 丁目 12 番 5 号
ビルメンテナンス会館 5 階

□従業員数：26 名

□設立年月日：昭和 41 年 1 月 24 日

□社団法人認可年月日：昭和 41 年 10 月 20 日

□公益社団法人設立年月日：平成 23 年 6 月 1 日

□企業 URL：http://www.j-bma.or.jp

全国ビルメンテナンス協会
正面玄関



【全国ビルメンテナンス協会とは】

- 全国ビルメンテナンス協会とは「建築物の快適な環境の確保」という社会的要請に応える公益団体として、内閣府より認定された公益社団法人です。
- 建築物衛生法に基づく登録業者の団体として、厚生労働大臣から指定を受け業界の資質向上のための各種事業を実施しています。
- 技能検定の試験業務実施団体として、厚生労働大臣から指定を受け、ビルクリーニング・ビル設備管理技能検定試験を実施しています。
- ビルメンテナンスに関する各種業務の調査・研究を実施しています。
- 雑誌や各種書籍、あるいは3つのインターネット・サイトを用いて、ビルメンテナンスに関する専門的情報を提供するとともに、知識の普及に努めています。
- 「ビルメンヒューマンフェア」などの各種イベントを開催し、情報交換や資質向上に努めています。
- 「世界ビルサービス連盟」並びに「アジアビルメンテナンス連盟」に加盟し、ビルメンテナンスに関する国際的な交流と技術の向上に協力しています。
- 各種講習会や研修会、セミナーを開催し、業界の資質の向上に努めています。
- 各種業務ごとに研究会を設け、技術・知識の標準化やデータの収集など、調査・研究に努めています。

※1) 2012年10月に、『PCA for SaaS』から『PCAクラウド』へ名称を変更いたしました。



公益社団法人 全国ビルメンテナンス協会
管理部経理課 斉藤 晶美 氏

全国ビルメンテナンス協会は
47都道府県の
ビルメンテナンス協会と
連携しています。



導入前の運用と課題

○コストをかけず、新会計基準に対応できるソフトを

同協会では『PCA 公益法人会計 クラウド』※1 を導入する前、2 種類の他社の会計ソフトを使用してきた。まずはパソコンが一般的に普及し始めた頃に導入した会計ソフトを経て、次に平成 16 年の公益法人会計基準改正をきっかけに新しい会計ソフトへ切り替えた。

同協会は全国に 9 つの地区本部を抱えており、それらの会計処理も本部で行うことになったため、ネットを利用した ERP パッケージの会計ソフトを導入したそう。当時はネット環境も十分整い、使い方もわかりやすく便利だったという。しかしあえて『PCA 公益法人会計 クラウド』に切り替えたのは、平成 20 年の公益法人会計基準の改正が大きな契機だった。

「以前使っていた会計ソフトでは、平成 20 年改正の公益法人会計基準について十分な対応ができないことがわかりました。まったく不可能ではなかったのですが、新会計基準に対応するためのバージョンアップに 100 万円以上のコストがかかることがわかったのです。この高額なコストには理由があって、そのソフトを使用しているユーザー数が少ないため、バージョンアップが保守でまかないきれないという説明でした。加えてサーバー設置の問題もありました。サーバーの耐用年数からいっても 5 年ほど経てば、また買い替えのための費用がかかります。いか

にコストを抑えて、かつ平成 20 年会計基準に対応できるソフトを導入するか、検討する必要がありました」(管理部 経理課 斉藤 晶美氏)

導入後の効果

○大幅なランニングコスト削減に成功

新ソフト導入にあたって、「ランニングコストが抑えられる」「平成 20 年会計基準に対応」という条件以外に、他部署からは「全国 9 つの地区本部で情報が同じレベルで保たれること」も要望されたそう。そこで選定されたのが『PCA 公益法人会計 クラウド』だ。「選定の条件をクリアしているだけでなく、よく会計士さんから PCA の名前は聞いていました。ネームバリューが全てではありませんが、やはり知名度に対する安心感もあったことは事実です」

では、実際にランニングコストはどうなったのだろうか？「仮に以前のソフトのバージョンアップならば、バージョンアップ費用 100 万円以上+サーバーの維持費保守料でした。しかし『PCA クラウド』では公益法人会計ソフトが約 56 万円（年間）のみ。バージョンアップ費用もサーバーの設置費用もかかりません。以前は保守料だけでも年間 60 ～ 70 万円必要でしたから、実際ランニングコストは大きく削減できました」

○クラウドでの入力処理にストレスは無し

当初「クラウド」の概念が、今一つわかりにくかったと語る斉藤氏だが、導入への不安はなかったという。「クラウドは雲という意味ですが、まさに雲をつかむように、いまだにぼんやりとわからない部分もあります（笑）。しかし当協会の場合は、以前もネットを利用した会計システムだったので、その点では大きな不安はありませんでした。そのため『PCA クラウド』にはすんなりと移行できたわけですが、実際に処理スピードの速さには満足しています。PCA の会計ソフトの特性も影響しているのかもしれませんが、以前のソフトは処理に少し時間を要し、フリーズすることもありました。しかし PCA の会計ソフトは処理時間が短く、私が知る限りではフリーズしたこともありません」

Excel® でのデータ出力についても非常に便利だと語る。「自分が使用する目的に沿ったデータだけを選んで、それを Excel® に落とすことができます。現在、本部と地区本部を含め、9 箇所合計 13 ～ 14 名の者が会計処理を担当していますが、この仕組みはとても便利に使っています。セキュリティの権限も細かく設定できるため、経理以外の者も情報を誤って書き換えることがないため安心して見ることができます」

○新会計基準に便利な事業の集計

平成 20 年改正の新会計基準では、以前の公益法人の会計基準と比較して、会計の概念や考え方そのものが大幅に変わったという言い方をする人も

多い。『PCA 公益法人会計』が他社ソフトと大きく異なる点は、この大幅な概念の変更への対応力だともいえるだろう。その点を斉藤氏が非常にわかりやすく説明してくれた。「仮にマンションに例えると、以前は 1 事業つまり 1 室があり、その 1 室ごとの賃貸状況を見ることが優先されてましたが、新会計基準では 1 室ではなくマンション 1 棟の経営状況が問われるような感覚です。PCA では事業別の集計が可能でグループ登録もできます。ミスがある場合も 1 つの事業を修正すれば、それを全体に反映させられ、新しい会計基準で考えた場合にとっても便利に使えますね」

今後の課題と展望

○行政からの要望にも迅速に対応できる環境



「クリーンクルー」マスコットキャラクター

★公益社団法人全国ビルメンテナンス協会は、斯業界イメージアップの一環として公募により、平成 3 年 7 月から「ビル清掃員」の新ネーミングとして「クリーンクルー」に決め、あらゆる場面で名称普及に努めてきました。

★また、平成 7 年に「クリーンクルー」のマスコットキャラクターも公募により決定しました。

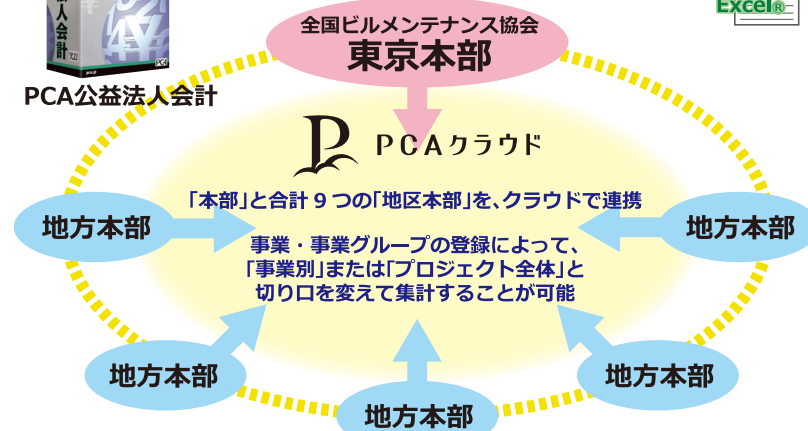
★さらに、平成 19 年 3 月にマスコットキャラクターの愛称を公募により、応募総数約 1 千の中から決定しました。その名も「ピカタン」。

システム概況図



PCA 公益法人会計

- 「平成 20 年度施行」「昭和 62 年施行」2 つの会計基準に対応
- 会計をまたいだ配賦が可能
- Excel® でのデータ出力によって使用目的に沿ったデータだけを出力することが可能





全国ビルメンテナンス協会 公式HP
http://www.j-bma.or.jp

サイト内の「ビルメンアビリティセンター」では、検定や講習会の案内が公開されており、オンラインでの申請も可能です。



ビルメンアビリティセンター HP
http://study.j-bma.or.jp/study/

ビルメンテナンスに役立つ資格試験や技能向上をはかる、能力アップの資格サイトです。

「点数を付けるなら 80 点」と概ね好評の『PCA 公益法人会計 クラウド』だが、「半期ごとの決算がもっと効率良くできるとたいへん助かりますね。半期特有処理の 1 例として、通常の処理を行った後に決算期と同様の棚卸処理（月々の支払い時は、全額を費用計上して、棚卸の時に在庫分の原価を費用からマイナスして棚卸に振替）を行う必要があります。この様な作業は毎月ではないため、確認や修正に時間がかかりますのでもっと早く半期財務諸表を作成する方法がないか考えています。

また、自動仕訳についても設定が少しわかりにくいので、もっとダイレクトにできる方法があるとうれしいです。」と斎藤氏は話す。なお、決算については「PCA の良さを再確認できたポイントがあります。『PCA 公益法人会計』では「決算仕訳」を利用して処理を 3 段階に分けることができます点です。決算処理には段階がありますので、段階を進んでから前の処理に修正・追加等が生じたときに、ソフトの機能として 1 段階しかできないものだと、最初から全て見直さなければなりませんが、3 つの段階に分けることで最初から同じ作業を繰り返さなくても済みます。1 段階目の処理の途中で、別の人間が 2 段階目の処理を「決算仕訳 2」を利用して始めれば時間の短縮にもなります。なので計画的・段階的に決算処理を進めるにはとても良いソフトですね」

公益法人の会計基準改正にともない、使用ソフトの切り替えを検討している法人は多いだろうが、何を基準に選ぶとよいのかを斎藤氏に助言していただいた。「今回の会計基準の改正によって収支計算書の添付は不要になりました。しかし行政庁が収支計算書を確認したいと要望してくることはあります。『PCA 公益法人会計』では最初に設定しておけば、収支計算書もすぐに集計・出力することができ、求められた場合にすぐに提出できるのは便利でしょうね。また当協会のように全国に拠点を持つ公益法人も多いと思いますが、地方の事務所は少人数の場合が多く、会計処理の負担は重くなりがちです。クラウドであれば本部で容易に処理でき、本部と地方の双方で確認し合うことでミスの発見や修正にもスピーディーに対応できます。最初はお互いに見られる気分はどうかと思いましたが、本部も地方もお互いがかえって安心できるというのが結論です。私もは現在の社会が期待するビルメンテナンス業の在り方を考えていくことが事業の柱ですから、毎日の事務処理の負担を少しでも軽減し、その分その在り方を追求していきたいですね」

クラウドの便利さを実感できた同協会では、『PCA 公益法人会計』との連携を視野に、今後は『PCA 給与』なども検討していくそう。